

## 大洲サマライの会 公開質問状への回答

### 1 公共交通

(1) 市内中心部の交通網（ぐるりんおおずはh30.5に廃止）について考えがあればお答えください。

A. 市中心部の公共交通は「ぐるりんおおず」の廃止に伴い、市街地を循環する路線を再構築する必要があり、「ぐるりんおおず」を継承する方向で再開を目指していきたいと考えます。また、利用実態や移動ニーズを踏まえて、運行ルートやダイヤの見直し、沿線施設への新たな乗り入れなど、さらなる利便性の向上を図っていききたいと考えています。

(2) 交通弱者（高齢者、僻地）に対する施策について考えがあればお答えください。

A. 路線バス、福祉バス、スクールバスなど、それぞれが運行する現在の路線を一体的に見直して、その地域に合った分かりやすい移動手段を再構築していきたいと考えています。

(3) 地域コミュニティを盛り上げて、お互い様型のカーボードの整備、土地や車や人を出す人、提供を受ける人皆がWin-Winであるようなシステムを市が主導的に進めていく考えがあればお答えください。

A. 地域の皆様が乗り合わせて利用が出来る「タクシー活用制度」、例えば、住民の代表者や公民館などへ窓口を設置し、住民からの予約を取りまとめてタクシー事業者に予約し、乗り合わせて目的地まで移動することで1人当たりの運賃を安く抑えるようなシステムなどを構築して、公共交通サービスを充実させていきたいと考えています。

(4) お金のやりとりが業法や公安委員会の認可などに触れて難しければ市が保証する福祉チケットを発行するなどといった活動を含め市が主導的に進めていく考えがあればお答えください。

A. 交通事業者と行政だけでなく、住民の皆様や沿線施設、様々な関係者や関係機関が連携して、みんなが安心して利用でき、持続可能な公共交通網を構築していくことに市が主体性をもって推進し、地域の公共交通を守り育てる体制を整えていききたいと考えています。

## 2 経済

### (1) 積極的な経済活動

大洲市が主体となって積極的な経済活動を行う考えがあればお答えください。たとえば、北海道の池田町のワイン製造などのように大洲市内の耕作放棄地で酒米を栽培し、日本酒を製造、海外への販路を見出すことなど。

- A. 新しい事業に取り組む新規創業や既存の経営者の皆様が事業の拡大にチャレンジする第2創業など、事業が芽吹き成長することで、多様な人材が多様な産業を支え発展していくような自由闊達な産業風土を育てていきたいと考えています。大洲市の地域資源や特色、強みを生かすような起業支援に力を注いでいきたいと思えます。

### (2) 原子力に代るエネルギー

大洲市が主導できる事業としてバイオマス、その他再生可能エネルギーに関しお考えがあればお答えください。

- A. 大洲市では、太陽光や風力、小水力、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーが活用可能だと思っています。市民や事業者の皆様へ普及啓発を行うとともに、環境教育の取り組みも実施していきたいと考えています。

### (3) 観光資源の活用

大洲市には、①さくらまつり（大洲城、富士山公園、八多喜祇園公園）、②つつじまつり（富士山）、③うかい、④いもたき、⑤大洲まつり・おおず浪漫祭、⑥もみじまつり（新谷、白滝）、⑦坂本龍馬（脱藩の道、いろは丸）、⑧肱川あらし、⑨鹿野川ダム湖などの観光資源がありますが、それぞれについて具体的な取り組み方の考えがあればお答えください。できれば、大洲市外の方に来ていただく方策と大洲市民が楽しむ方策（例えば、大洲市民が全員うかい船に乗れば利用者は4万人になりますし、うかい船で花見、紅葉狩、雪見をすとか）とに分けてお答えください。

- A. 大洲市には、「肱川」「臥龍山荘」「大洲城」「長浜大橋」「鹿野川湖」「屋根付き橋」など様々な観光資源があり、「うかい」や「いもたき」などの伝統ある観光行事や「肱川あらし」という世界的に珍しい自然現象も見られます。これら豊かな観光資源の持つ魅力を最大限に発揮しながら、多様化する観光客のニーズにあわせた観光メニューの提供、インバウンド対策の充実や観光情報発信などの強化により、国内外からの観光客による交流人口の増加を図っていききたいと考えています。

また、大洲市民にも楽しめる体制をつくることは、ガイドの育成やおもてなし体制の強化に繋がっていくものと考えています。市民の皆様にも大洲の魅力を知っていただくことで、多くの市民の皆様がそれぞれ情報発信していくことも可能となりますので、うかいサービスデーの充実や市民参加型のイベント開催など考えていきたいと思っています。そして、包括的に観光をマネジメントできる体制を構築し、市民の皆様、観光客の皆様の満足度を高める取り組みを進めていきたいと考えています。

#### (4) 地域おこし協力隊の進化系

大洲市には現在地域おこし協力隊のスタッフ3名おられ（河辺、肱南、長浜戒川）、その活動は非常に評価できますが、少数のスタッフかつ民間のみの努力だけでは限界があります。各地域の若い力に頼り、それぞれ地域協力隊のような参加を市が主導して、市のスタッフを地域から支え、地域の情報を伝えるシステムの構築に取り組む考えがあればお答えください。伝統的な地域消防団の「町おこし版」といったところでしょうか。

- A. みんなが「市民総参加」の意識をもって地域の課題や目標に取り組んでいく「協働のまちづくり」を進めていきたいと思っています。地域の活性化や課題解消の取り組みを行う「大洲市ががんばるひと応援事業」は、多くの団体が活用されており、今後も自らの創意工夫により地域発展に向けた取り組みが出来るよう制度の充実を図っていきたいと考えています。

また、地域を担う人材育成が最も重要であり、様々な地域づくりの団体同士が情報交換を行える場をつくることや専門家による研修会を充実させて、地域活性化の核となる団体の育成に努めていく考えです。

#### (5) 均衡のある都市計画

「賑わうところは賑わい、廃れるところは廃れる」というビルド&スクラップが大洲の当たり前になっているように見えます。お城を中心にした経済文化、及びロードサイトを活かした東大洲地区の店舗集積地域に比べ、大洲駅前には駅前通りと国道56号線の交差点までが空地になっているように、大洲市の玄関口の体をなしていません。駅に近い観光拠点を設けるなどその対策をふくめ均衡のある都市計画の進め方について考えがあればお答えください。

- A. 伊予大洲駅に休憩スペースや観光案内の拠点を設けるなど観光の玄関口を整備し、JR伊予大洲駅から肱南地区までの観光客の動線の魅力の向上を図っていく考えです。肱北や肱南地区の歴史や風土、肱川の自然などを感じながら町歩きを行い、市民の温かい人情に触れながら、食べたり、飲んだり、買い物をしたりと滞在できるような環境整備を行っていきたいと考えています。

### 3 子育て・教育

#### (1) 子どもの医療費助成について

内子町が八幡浜市などと比べると大洲市の医療費助成はやや消極的なように思われます。もともと国策なのかもしれませんが、現状の近隣自治体の格差によって、大洲市外に居住して大洲市に勤務するという実態があることをふまえ、今後の見通しなどについて考えがあればお答えください。

- A. 子どもの医療費助成制度は、全国共通の課題であり、子どもの健全育成・子育て支援の観点においても、地域間の格差がなく、全国民が安心して共通の医療サービスが受けられるよう、国の社会保障政策として責任をもって取り組んでいくべきものと考えています。そのなかで、あらゆる視点から総合的に検討し、子どもの医療費無償化の拡充について大洲市としてできることから順次取り組んでいきたいと考えています。

#### (2) 夜間の小児科開設

夜間の小児科の医療体制があまり十分ではありません。八幡浜市で対応できない場合は松山市まで行かないと対応できない状況があります。今後の見通しなどについて考えがあればお答えください。

- A. 小児救急医療は、大洲市を含むこの圏域において、医師の不足と医師の高齢化が進み、大変厳しい状況にあるものと認識しています。まずは、この医療圏域での現在の小児救急医療体制を維持存続させることができるよう、愛媛県や関係市町と連携して小児救急医療体制の維持・拡充や医師の確保などに努力していきたいと考えています。同時に「子どもの救急ガイドブック」を有効に活用できるように周知することで、子育ての不安解消に努めていきたいと思えます。

#### (3) 放課後児童クラブ（学童保育）

学童保育によって働く女性が増えたことはよいことではありますが、まだその受け入れ体制が十分ではない面もあるようです。今後の見通しなどについて考えがあればお答えください。

- A. 子ども・子育てへの支援施策において、放課後児童クラブは大変有効な施策であると考えています。開設時間や休日、設置場所など色々なニーズがあるなかで、必要とする子どもたちが利用でき、安全で安心して快適に過ごすことができるよう、市民の皆様の声を反映しながら、受け入れ体制の充実、環境整備を図っていきたいと考えています。

#### (4) 食育

現在の学校給食においては地産地消がされているとのことですが、さらに進めて子どもの地元意識、地元企業の販路拡大のため、大洲産の食材・商品（大洲ええモンセレクション認定商品、しぐれ、はもカツバーガー、とん栗まぶしなど）を学校で積極的に提供していくことなど考えがあればお答えください。

- A. 学校給食において、大洲の伝統的な食文化を継承するような献立や大洲産品を知ってもらうような取組みは、大洲の食材や風土を学び、大洲の味を次の世代へ伝えていく上でも大切なことだと思います。大洲ええモンセレクションや愛たい菜などと連携しながら、検討していきたいと考えます。

#### (5) 大洲の歴史

近時「ふるさと大洲歴史物語」の書籍（中学生用）が作成されたようですが、それを進めて、子どもたちが大洲に誇りを持てるような「大洲の歴史」教育の実践について何か考えがあればお答えください。

- A. 大洲市中学生版歴史副読本は、大洲市の子どもたちが、自分の言葉で大洲の歴史や文化を多くの方々に伝えることができる人になってほしいとの願いを込めて作成されています。大洲で生まれたこと、大洲で育ったことを誇りに思える「ふるさと大洲を愛する人づくり」を目指し、この歴史副読本を活用しながら、学校と地域が連携して郷土の歴史・文化・自然を愛する心を育てていく取組みを引き続き進めていきます。

#### (6) 中村修二博士

継続的な取組みなどの考えがあればお答えください。

- A. 中村さんは、私の同級生でもあり、出陣式にも激励のメッセージをいただくなど親しい間柄にあります。ノーベル物理学賞を受賞された中村博士は、私たち大洲市民の誇りであり、彼の偉業を後世に伝えていかなければならないものと考えています。中村博士のような世界で輝く活躍を目指すきっかけとなるように、大洲市で学ぶ生徒の皆さんが中村博士と直接交流する機会を持つことなどを検討していければと思っています。

#### 4 スポーツ・文化

##### (1) 市営温水プール

市民の健康増進のため温水プールを建設する考えがあればお答えください。

- A. 現在のところ、市営温水プールを建設する考えはありませんが、市民の皆様の体力向上と健康増進に向けて、サイクリングや身近なレクリエーションスポーツなど生涯スポーツの振興に取り組んでいきます。ただ可燃ゴミ焼却施設の熱利用をどうするかが課題ととらえており、その活用策を考える中で検討いたします。

##### (2) 大洲マラソン

大洲市健康マラソン大会（2月）を充実させる方法として、たとえば、河辺→肱川→大洲→長浜への肱川沿いをワンウェイで走る大会を大洲市主導で開催する考えがあればお答えください（ちなみに河辺発→長浜着だと50キロウルトラマラソン、肱川発→長浜着だとフルマラソン可能だそうです。）

- A. マラソン大会は、道路管理者、警察署、実施団体など大変多くの関係者の皆様のご協力とご支援により実施されています。  
現在の大洲市健康マラソンも、多くの市民の皆様が気楽に参加しやすい大会になっているものと思いますが、参加される皆様の意見を反映しながら充実していきたいと思っております。

##### (3) 大洲ジュニアトライアスロン

オリンピック選手（細田雄一選手がロンドンオリンピック出場）を輩出した歴史ある大会ですが、意外と地元参加者は少ないですし、大洲のアピールする場になっていません。大洲市の肱川文化の象徴といえるような地元根ざした大会に盛り上げる考えがあればお答えください。

- A. 大洲ジュニアトライアスロン大会は、大会を通じて川を大切にする意識の高揚を図ることも目的のひとつです。市内の子どもたちも、多く参加していただけるようにスポーツの振興に取り組み、共催、協賛、後援をいただいている団体・企業の皆様と共に考え、一層盛り上がる大会になるよう努力してまいります。

(4) 大洲市民運動会

平成28年度以降、休止となっていますが内容をリフレッシュして再開する考えはありますが。市民運動会に代替する市民のための健康増進、レクレーションの機会(大洲市長杯の拡大充実など)について考えがあればお答えください。

- A. 市民運動会は、「意向調査」やご意見を伺うなかで、少子・高齢化による人口減少や自治組織の再編など各地域を取り巻く環境の変化により、市民運動会が地域への負担増になり、地域行事に支障をきたしていることが明らかとなって休止に至ったことから、現在のところ再開する考えはありません。参加する人、運営する人の負担増とならないように各地域が行う健康増進の取り組みなどについては、支援を検討していきたいと思っております。

(5) 市民会館

西予市宇和文化会館や八幡浜市文化会館ゆめみかんなどのように定期的にコンサートなどを行う考えがあればお答えください。

- A. 現在、合併20周年となる平成37年1月の市民文化会館オープンを目指して取り組んでいるところであり、市民の皆様にご親しまれ、利用しやすい市民文化会館がどのようなものであるか、コンサートの開催を含めた運営方法や設備など、皆様のご意見を伺いながら、そして将来の大洲市の負担を見据えながら、建設に取り組んでいきたいと考えております。

(6) 大洲市の指定文化財(国指定重要文化財6件、県指定文化財34件、市指定文化財186件)

市民が積極的に活用できる考えがあればお答えください。

- A. 文化財の保存を図りながら、多くの皆様に文化財の存在を知っていただき、また訪れていただいて、その価値を伝承していただけるような活用を考えていきたいと思っております。

## 5 外交

### (1) 内子町、八幡浜市、西予市などの近隣自治体との関係

大洲市のみでできることは限られていますが、近隣自治体や南予地域全体が一丸となった施策やイベント開催などお考えがあればお答えください。

- A. これまでも、町並博 2004 や南予博 2016 など近隣自治体と一体となって南予の魅力や特性を活かした周遊のしくみや周遊の情報発信の取り組みを行っており、「南予」をブランドの一つとしてプロモーションや特産品の販売、旅行商品の開発など連携した取り組みを実施していきたいと考えています。

### (2) 友好都市

鳥取県米子市、滋賀県高島市、北海道えりも町、大韓民国全羅南道靈光郡が友好都市とのことですが、市民にはあまり知られていないようです。教育、観光といった面からも積極的な交流について考えがあればお答えください。

- A. 市民レベルでの友好都市との交流を活性化することで地域の活性化につなげていきたいと考えています。友好都市の情報発信を積極的に行い、市民の皆様には友好都市を知っていただき、相互交流を深めていく取り組みを進めていきたいと考えています。

## 6 その他特に主張したいことがあればお答えください。

- A. 「人・文化・自然がきらめくまちづくり」を実現していくため、チェンジ、コラボレーション、チャレンジに市民の皆様との対話を意味する「コミュニケーション」のCをプラスした「4つのC」をまちづくりの基本として、「①健やかに暮らせるまちづくり」、「②活力あるまちづくり」、「③安全・安心のまちづくり」、「④誇れる郷土のまちづくり」、「⑤住み続けたいまちづくり」の5つの目標に向かって取り組んでいきます。

大洲の子どもたちが自分の夢を実現できるように、また、将来に夢をもち、ふるさとに誇りをもって定住していけるよう、大洲市政の発展のために全身全霊をかけて取り組んでいきます。